

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	生活情報化論		
英文授業科目名	Informatization of Everyday Life		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	福田 豊		
居室	西6-509		

公開E-Mail	授業関連Webページ
福田 佐藤	<a href="http://www.icit.jp/">http://www.icit.jp/</a>

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>情報化（IT化）は産業システムの情報化から始まり、社会システムの情報化を経て、いよいよ生活日常の領域に及び始めている。このような生活情報化は、様々な領域や問題を扱わなければならないが、講義では大きく2つの観点からこれを整理して検討する。</p> <p>第1分野は佐藤佳弘（武蔵野大学現代社会学部）が担当し、生活分野へのITの普及に伴って発生してきている社会問題を解説すると共に、法的整備の現状や執られている防止策について論ずる。第2分野では情報化一般の流れの中に生活情報化を位置づけ、そこから市民としての主体性やコミュニティの形成を支援するものとしてのICT（情報通信技術）の意義と射程を検討する。以上のような検討を通じて情報化社会の現段階を読み解く力、情報化社会の恩恵をフルに享受して市民として主体的に生きる能力を獲得することを目標とする。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
基礎情報学

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
特になし

<b>【教科書等】</b>
<p>教科書は特に定めない。以下は参考書である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 佐藤佳弘『生活と情報技術 - 生活者から見た情報化社会』アグネ承風社</li> <li>2 福田・須藤・早見『情報経済論』有斐閣</li> <li>3 日本情報処理開発協会『情報化白書』コンピュータ・エージ社</li> <li>4 福田豊『情報化のトポロジー』御茶の水書房</li> </ol>

- 5 情報通信総合研究所編『情報通信ハンドブック』情報通信総合研究所  
6 佐藤他『情報福祉論』(株)ミネルヴァ書房

【授業内容とその進め方】

講義を軸とするが、必要な箇所では履修者の理解を深めるため、社会問題の現状を報じた報道番組のニュース映像も用いる。また、一方的な講義受講とならないよう、講義時間内に履修者同士の意見交換の時間を設けることもある。さらに、非常勤の佐藤が担当する授業では、コミュニケーション不足にならないよう、シャトルカード(リアクションペーパー)の採用により、履修者一人ひとりの意見を把握するとともに、教員との双方向コミュニケーションを実現する。授業の予習・復習としては、ICTに関するニュースに注意し、社会の中にある情報現象を主体的に理解・評価できるようにすることが求められる。

講義は福田豊と佐藤佳弘が半分ずつ担当する。

講義の構成は以下のように予定してる。

- 1 IT社会の権利侵害(佐藤佳弘)
  - (1) 情報化社会の進展と影響
  - (2) 人権の侵害
  - (3) 著作権の侵害
  - (4) プライバシーの侵害
  - (5) 肖像権の侵害
  - (6) パブリシティ権の侵害
  - (7) 個人情報
- 2 生活情報化の社会的コンテキスト(福田豊)
  - (1) 産業システムの情報化のドライビングフォース
  - (2) 生活日常の情報化のドライビングフォース
  - (3) 浮上するコミュニティ

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期末試験とレポートによる。講義の目標を60%を達成している場合に合格とする。

【オフィスアワー：授業相談】

火曜日5限

【学生へのメッセージ】

生活情報化とは単なるデジタル家電の普及や、家庭へのインターネットの浸透のことではない。それはカオスとしての生活日常を再構造化するポテンシャルを秘めているものなのである。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【その他】
なし